

平成24年度 財政状況資料集

総括表（市町村）

都道府県名	山梨県		市町村類型	II-O		指定団体等の指定状況		区分		平成24年度(千円)	平成23年度(千円)	区分		平成24年度(千円・%)	平成23年度(千円・%)		
						財政健全化等	×	歳入総額	28,470,522	27,732,357	実質収支比率	4.2	2.8				
市町村名	南アルプス市		地方交付税種地	2-2		財源超過	×	歳出総額	27,451,774	27,073,262	経常収支比率	81.9	90.9				
						首都	×	歳入歳出差引	1,018,748	659,095	(※1)	(88.2)	(90.9)				
						近畿	×	翌年度に繰越すべき財源	181,987	118,165	標準財政規模	19,810,452	19,556,794				
						中部	×	実質収支	836,761	540,930	財政力指数	0.55	0.57				
人口	22年国調(人)		72,635		産業構造(※5)	過疎	○	単年度収支	295,831	-277,935	公債費負担比率	21.7	22.9				
	17年国調(人)		72,055			山振	○	積立金	2,613	946	健全化判断比率	-	-				
	増減率(%)		0.8			低開発	○	積立金取崩し額	-	-	連結実質赤字比率	-	-				
住民基本台帳人口(※7)	25,03,31(人)		73,261		第1次	指数表選定	○	実質単年度収支	1,070,386	94,847	実質公債費比率	10.2	12.1				
	うち日本人(人)		72,329			3,702	4,699	基準財政収入額	7,322,611	7,266,008	資金不足比率(※4)	-	-				
	24,03,31(人)		72,656		第2次		基準財政需要額	13,066,181	13,140,982	将来負担比率	23.6	38.1					
	うち日本人(人)		72,656			12,228	13,018	標準税収入額等	9,438,027		9,301,036						
	増減率(%)		0.8		34.3	34.1	経常経費充当一般財源等	16,298,965	16,835,178								
	うち日本人(%)		-0.5		19,745	19,712	歳入一般財源等	21,255,587	19,988,539								
面積(km ²)		264.07		55.3	51.7												
人口密度(人/km ²)		275															
世帯数(世帯)		24,500															
職員の状況																	
特別職等	区分	定数	1人あたり平均給料月額(百円)	区分	職員数(人)	給料月額(百円)	1人あたり平均給料月額(百円)	地方債現在高	28,502,530	30,082,699							
	市区町村長	1	8,000	一般職員	552	1,843,680	3,340	うち公的資金	14,948,595	16,542,808							
	副市区町村長	1	6,400	うち消防職員	81	264,141	3,261	債務負担行為額(支出予定額)	510,404	10,342							
	教育長	1	5,780	うち技能労務職員	11	28,226	2,566	収益事業収入	-	-							
	議会議長	1	4,000	教育公務員	3	12,588	4,196	土地開発基金現在高	1,716,008	1,715,574							
	議会副議長	1	3,600	臨時職員	-	-	-	財政調整基金	4,170,394	3,867,781							
	議会議員	20	3,500	合計	555	1,856,268	3,345	減債基金	980,458	979,860							
					ラスバイレス指数(※6)	107.1	(98.9)		積立金現在高	6,497,578	5,819,858						
									その他特定目的基金								
	一般会計等の一覧																
項番	会計名	事業会計の一覧	項番	会計名	公営企業(法適)の一覧	項番	会計名	公営企業(法非適)の一覧	項番	会計名	関係する一部事務組合等一覧	項番	組合等名	地方公社・第三セクター等一覧	項番	団体名	(※3)
(1)	一般会計	(2)	国民健康保険特別会計	(6)	水道事業会計	(8)	下水道事業特別会計	(15)	三郡衛生組合(一般会計)	(25)	白根ケーブルネットワーク						
		(3)	介護保険特別会計	(7)	自動車運送事業会計	(9)	芦安農業集落排水事業特別会計	(16)	三郡衛生組合(し原処理事業特別会計)	(26)	桃源文化振興協会						
		(4)	後期高齢者医療特別会計			(10)	温泉給湯事業特別会計	(17)	三郡衛生組合(火葬事業特別会計)	(27)	南アルプス市体育協会						
		(5)	居宅介護予防支援事業特別会計			(11)	山梨県北岳山荘管理事業特別会計	(18)	中巨摩地区広域事務組合(一般会計)								
						(12)	白根簡易水道事業特別会計	(19)	中巨摩地区広域事務組合(ごみ処理事業特別会計)								
						(13)	芦安簡易水道事業特別会計	(20)	中巨摩地区広域事務組合(地区公園事業特別会計)								
						(14)	土地取得造成事業特別会計	(21)	中巨摩地区広域事務組合(老人福祉事業特別会計)								
								(22)	中巨摩地区広域事務組合(勤労青年センター事業特別会計)								
								(23)	中巨摩地区広域事務組合(し原処理事業特別会計)								
								(24)	山梨県市町村総合事務組合(一般会計)								

(注釈) ※1: 経常収支比率の()内の数値は、「減収補償(特例分)」及び「臨時財政対策債」を除いて算出したものである。
 ※2: 各会計の一覧は主な会計(10会計まで)を記載している。
 ※3: 地方公共団体が損失補償等を行っている出資法人で、健全化法の算出対象となっている団体については、「地方公社・第三セクター等」の団体名に○印を付与している。
 ※4: 資金不足比率欄には、資金が不足している会計のみ記載している。
 ※5: 産業構造の比率は、分母を就業人口総数とし、平成22年国調は分類不能の産業を除き、平成17年国調は分類不能の産業を含んでいる。
 ※6: ラスバイレス指数の()内の数値は、国家公務員の時限的な(2年間)給与改定特例法による措置が無いとした場合の値である。
 ※7: 住民基本台帳法の改正により、平成25年3月31日現在の住民基本台帳登録人口については、外国人住民を含む。

(1) 普通会計の状況(市町村)

歳入の状況(単位:千円・%)					地方税の状況(単位:千円・%)					歳出の状況(単位:千円・%)				
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	区分	収入済額	構成比	超過課税分	区分	決算額(A)	構成比	(A)のうち普通建設事業費	(A)のうち充当一般財源等	
地方税	8,478,690	29.8	8,478,690	45.9	普通税	8,465,781	99.8	27,036	議会議費	231,627	0.8	-	231,627	
地方譲与税	270,087	0.9	270,087	1.5	法定普通税	8,465,781	99.8	27,036	総務費	3,616,586	13.2	187,422	3,318,756	
利子割交付金	17,130	0.1	17,130	0.1	市町村民税	3,866,445	45.6	27,036	民生費	9,187,191	33.5	279,775	4,893,659	
配当割交付金	15,609	0.1	15,609	0.1	個人均等割	104,859	1.2	-	衛生費	2,002,023	7.3	36,171	1,782,286	
株式等譲渡所得割交付金	3,548	0.0	3,548	0.0	所得割	3,135,023	37.0	-	労働費	78,018	0.3	-	14,466	
地方消費税交付金	647,582	2.3	647,582	3.5	法人均等割	183,902	2.2	-	農林水産業費	619,712	2.3	232,207	450,403	
ゴルフ場利用税交付金	-	-	-	-	法人税割	442,661	5.2	27,036	商工費	393,454	1.4	90,178	301,508	
特別地方消費税交付金	-	-	-	-	固定資産税	3,922,211	46.3	-	土木費	2,628,462	9.6	1,098,971	1,578,737	
自動車取得税交付金	90,005	0.3	90,005	0.5	うち純固定資産税	3,888,604	45.9	-	消防費	986,562	3.6	213,484	780,434	
軽油引取税交付金	-	-	-	-	軽自動車税	191,283	2.3	-	教育費	3,006,301	11.0	529,521	2,236,472	
地方特例交付金	51,646	0.2	51,646	0.3	市町村たばこ税	485,842	5.7	-	災害復旧費	77,744	0.3	-	30,717	
地方交付税	9,824,154	34.5	8,873,571	48.0	釧産税	-	-	-	公債費	4,624,094	16.8	-	4,617,774	
普通交付税	8,873,571	31.2	8,873,571	48.0	特別土地保有税	-	-	-	諸支出費	-	-	-	-	
特別交付税	944,733	3.3	-	-	法定外普通税	-	-	-	前年度繰上充用金	-	-	-	-	
震災復興特別交付税	5,850	0.0	-	-	目的税	12,909	0.2	-	歳出合計	27,451,774	100.0	2,667,729	20,236,839	
(一般財源計)	19,398,451	68.1	18,447,868	99.8	法定目的税	12,909	0.2	-						
交通安全対策特別交付金	9,812	0.0	9,812	0.1	入湯税	12,909	0.2	-						
分担金・負担金	661,800	2.3	-	-	事業所税	-	-	-						
使用料	492,943	1.7	6,014	0.0	都市計画税	-	-	-						
手数料	48,329	0.2	159	0.0	水利地益税等	-	-	-						
国庫支出金	2,775,089	9.7	-	-	法定外目的税	-	-	-						
国有提供交付金(特別区財調交付金)	-	-	-	-	旧法による税	-	-	-						
都道府県支出金	1,695,816	6.0	-	-	合計	8,478,690	100.0	27,036						
財産収入	29,110	0.1	5,203	0.0										
寄附金	2,640	0.0	-	-										
繰入金	110,540	0.4	-	-										
繰越金	359,095	1.3	-	-										
諸収入	295,097	1.0	19,916	0.1										
地方債	2,591,800	9.1	-	-										
うち減収補填債(特例分)	-	-	-	-										
うち臨時財政対策債	1,405,100	4.9	-	-										
歳入合計	28,470,522	100.0	18,488,972	100.0										

区分	収入済額	構成比	超過課税分
合計	8,478,690	100.0	27,036
平成24年度	97.9	91.6	97.8
平成23年度	98.3	93.4	98.2
徴収率(%)	97.3	88.9	97.2

区分	平成24年度	平成23年度
徴収率(%)	97.9	91.6
市町村民税	98.3	93.4
純固定資産税	97.3	88.9

公営事業等への繰出	国民健康保険事業会計の状況
合計	3,367,571
下水道	1,038,653
上水道	126,490
簡易水道	53,673
工業用水道	-
国民健康保険	652,011
その他	1,496,744
実質収支	234,848
再差引収支	191,843
加入世帯数(世帯)	10,478
被保険者数(人)	19,725
被保険者1人当り	保険税(料)収入額 91
	国庫支出金 86
	保険給付費 252

区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等	経常収支比率
義務的経費計	13,944,305	50.8	10,317,930	9,474,242	47.6
人件費	4,806,696	17.5	4,281,418	4,210,518	21.2
うち職員給	3,340,706	12.2	2,914,189	-	-
扶助費	4,513,529	16.4	1,418,752	1,417,906	7.1
公債費	4,624,080	16.8	4,617,760	3,845,818	19.3
元利償還金	4,623,910	16.8	4,617,590	3,845,648	19.3
うち元金	4,171,969	15.2	4,166,212	3,394,270	17.1
うち利子	451,941	1.6	451,378	451,378	2.3
一時借入金利子	170	0.0	170	170	0.0
その他の経費	10,761,996	39.2	9,137,874	6,824,723	34.3
物件費	4,724,669	17.2	3,822,187	3,235,817	16.3
維持補修費	105,397	0.4	86,293	86,293	0.4
補助費等	1,891,733	6.9	1,676,398	1,371,822	6.9
うち一部事務組合負担金	750,043	2.7	737,610	667,848	3.4
繰入金	3,241,081	11.8	2,845,026	2,130,791	10.7
積立金	707,136	2.6	700,000	-	-
投資・出資金・貸付金	91,980	0.3	7,970	-	-
前年度繰上充用金	-	-	-	-	-
投資的経費計	2,745,473	10.0	781,035	-	-
うち人件費	59,926	0.2	59,926	-	-
普通建設事業費	2,667,729	9.7	750,318	-	-
うち補助	1,169,997	4.3	70,588	-	-
うち単独	1,357,950	4.9	615,500	-	-
災害復旧事業費	77,744	0.3	30,717	-	-
失業対策事業費	-	-	-	-	-
歳出合計	27,451,774	100.0	20,236,839	-	-

(注釈)
 普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、
 単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

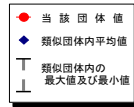
(2)各会計、関係団体の財政状況及び健全化判断比率（市町村）

一般会計等の財政状況(単位:百万円)

会計名	歳入	歳出	形式収支	実質収支	他会計等からの繰入金	地方債現在高	備考
1 一般会計	28,472	27,453	1,019	837	112	28,503	
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							
32							
33							
34							
35							
36							
37							
38							
39							
40							
41							
42							
43							
44							
45							
46							
47							
48							
49							
50							
51							
52							
53							
54							
55							
56							
57							
58							
59							
60							
61							
62							
63							
64							
65							
66							
67							
68							
69							
70							
71							
72							
73							
74							
75							
76							
77							
78							
79							
80							
81							
82							
83							
84							
85							
86							
87							
88							
89							
90							
91							
92							
93							
94							
95							
96							
97							
98							
99							
100							
101							
102							
103							
104							
105							
106							
107							
108							
109							
110							
111							
112							
113							
114							
115							
116							
117							
118							
119							
120							
121							
122							
123							
124							
125							
126							
127							
128							
129							
130							
131							
132							
133							
134							
135							
136							
137							
138							
139							
140							
141							
142							
143							
144							
145							
146							
147							
148							
149							
150							
151							
152							
153							
154							
155							
156							
157							
158							
159							
160							
161							
162							
163							
164							
165							
166							
167							
168							
169							
170							
171							
172							
173							
174							
175							
176							
177							
178							
179							
180							
181							
182							
183							
184							
185							
186							
187							
188							
189							
190							
191							
192							
193							
194							
195							
196							
197							
198							
199							
200							
201							
202							
203							
204							
205							
206							
207							
208							
209							
210							
211							
212							
213							
214							
215							
216							
217							
218							
219							
220							
221							
222							
223							
224							
225							
226							
227							
228							
229							
230							
231							
232							
233							
234							
235							
236							
237							
238							
239							
240							
241							
242							
243							
244							
245							
246							
247							
248							
249							
250							
251							
252							
253							
254							
255							
256							
257							
258							
259							
260							
261							
262							
263							
264							
265							
266							
267							
268							
269							
270							
271							
272							
273							
274							
275							
276							
277							
278							
279							
280							
281							
282							
283							
284							
285							
286							
287							
288							
289							
290							
291							
292							
293							
294							
295							
296							
297							

(3) 市町村財政比較分析表(普通会計決算)

人口	73,261人	(H25.3.31現在)	実	赤	字	比	率	-	%
うち日本人	72,329人	(H25.3.31現在)	実	赤	字	比	率	-	%
面積	284.07	km ²	実	赤	字	比	率	10.2	%
総面積	28,470,522	千円	実	赤	字	比	率	23.6	%
収入	27,451,774	千円	市	町	村	類	型	H20	II-O
支出	836,761	千円	H23	II-O	H24	II-O	H22	II-O	
実収	19,810,452	千円	(年	度	毎)		
標準財政規模	28,502,530	千円							

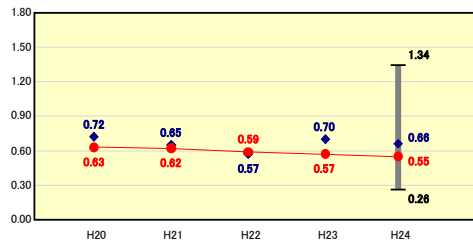


※市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※平成25年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率及び将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。
 ※充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体については、将来負担比率のグラフを表記しない。
 ※類似団体内平均値は、充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体を含めた加重平均であるため、最小値を下回ることがある。
 ※「人件費・物件費等の状況」の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。
 ※住民基本台帳法の改正により、平成25年3月31日現在の住民基本台帳登録人口については、外国人住民を含む。

財政力

財政力指数 [0.55]

類似団体内順位 26/40 全国平均 0.49 山梨県平均 0.55

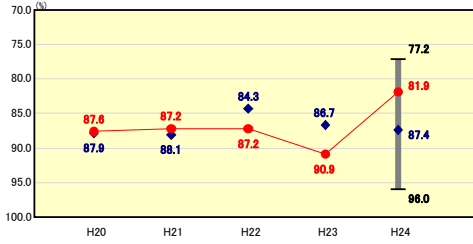


財政力指数の分析欄
 基準財政収入額については、市民税所得割・法人税割が、扶養控除の見直しや業績好調企業の影響により近年増加傾向にある。
 また、基準財政需要額については、公債費(合併特例債・臨時財政対策債償還費)や社会福祉費等が大きく増加しており、この結果、財政力指数は低下傾向が続いている。
 類似団体との比較では、基準財政収入額は小さく、基準財政需要額は大きい傾向にあり、財政力指数も下回っている状況にある。
 今後は、平成26年度から普通交付税の本算定に向けた激変緩和期間に入り、厳しい財政運営が見込まれる。税収増収業務の強化に引き続き取り組み、自主財源の確保を図る一方、行政改革の推進による歳出の見直しが課題である。

財政構造の弾力性

経常収支比率 [81.9%]

類似団体内順位 2/40 全国平均 90.7 山梨県平均 84.0

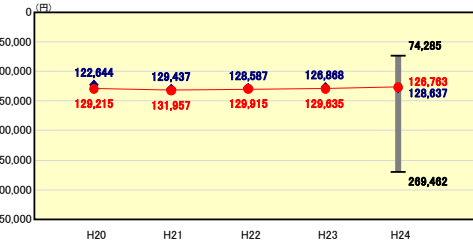


経常収支比率の分析欄
 経常経費に充当した一般財源については、物件費・扶助費が増加した一方、人件費・補助費等・公債費が減少し、全体では前年度比で3.2%減少した。
 また、経常一般財源については、地方交付税等が増加した一方、市税が土地・家屋の評価替があった固定資産税の影響により減少し、前年度比で0.1%減少した。ただし、前年度は抑制した臨時財政対策債を発行したことにより、経常一般財源に臨時財政対策債を加えた財源は前年度比で7.5%増加し、この結果、経常収支比率は9.0ポイント減少した。
 類似団体との比較では、物件費・公債費の比率が特に高い状況にある。公共施設再配置をはじめとする行政改革の推進、起債対象事業の精査と繰上償還による将来的な公債費負担の軽減等に努める必要がある。

人件費・物件費等の状況

人口1人当たり人件費・物件費等決算額 [126,763円]

類似団体内順位 25/40 全国平均 116,454 山梨県平均 123,440

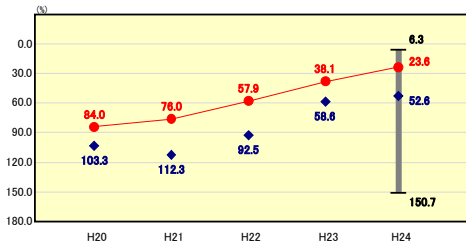


人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析欄
 人件費・物件費等決算額の人口1人当たりの金額は近年減少傾向にある。また、類似団体との比較では、人件費は平均を下回っている一方、物件費は上回っている状況にある。
 人件費については、定員適正化計画に基づき、退職者に対する新規採用者の抑制や早期退職勧奨制度等により、職員数の計画的な削減を図っており、職員給の人口1人当たりの金額は、前年度比で3.3%減少した。
 物件費については、類似団体平均との比較では、賃金が特に大きく上回っている。行政改革により組織・機構の見直しを行い、公共施設の維持管理経費の抑制を図っていくことが課題である。

将来負担の状況

将来負担比率 [23.6%]

類似団体内順位 16/40 全国平均 60.0 山梨県平均 57.1

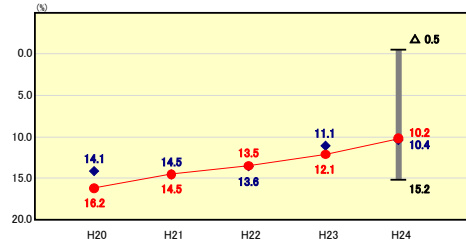


将来負担比率の分析欄
 将来負担比率は、前年度比で14.5ポイント減少した。
 主な要因には、一般会計の市債元利償還金、繰上償還により前年度比で15.8億円減少したことをはじめ、公営企業債等繰入見込額(特別会計の市債現在高のうち一般会計が将来負担すると見込まれる額)が3.4億円減少したこと、関係一部事務組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金の見込額が1.5億円減少したことが挙げられる。また、こうした市債の償還等に対する充当可能基金が、積立により10.0億円増加したことも影響している。
 将来負担比率は類似団体平均を下回っており、経年でも改善傾向で推移している。

公債費負担の状況

実質公債費比率 [10.2%]

類似団体内順位 16/40 全国平均 9.2 山梨県平均 11.9

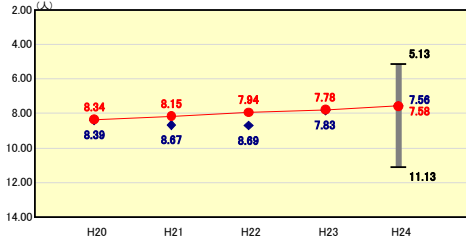


実質公債費比率の分析欄
 実質公債費比率は、前年度比で1.9ポイント減少した。
 主な要因には、一般会計の市債元利償還金が、繰上償還の効果等により前年度比で3.7億円減少したこと、関係一部事務組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金が1.2億円減少したことが挙げられる。また、普通交付税や標準税収入額の増加により、比率の分母となる標準財政規模が2.5億円増加したことも影響している。
 実質公債費比率は類似団体平均を下回っており、経年でも改善傾向で推移している。

定員管理の状況

人口千人当たり職員数 [7.58人]

類似団体内順位 22/40 全国平均 7.00 山梨県平均 7.57

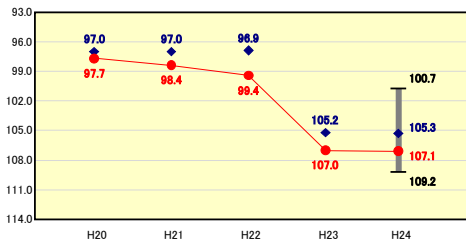


人口千人当たり職員数の分析欄
 人口千人当たり職員数は、前年度比で0.2人減少し、類似団体とほぼ同じ水準にある。
 本市では、平成15年の合併以降、定員適正化計画に基づき、簡素で効率的な行政運営の推進の観点から、組織・機構の見直しや事務事業の見直しを行いつつ、退職者数に対する新規採用者数の抑制、早期退職勧奨制度の活用等により、職員数の計画的な削減を図っている。

給与水準(国との比較)

ラスパイレス指数 [107.1]

類似団体内順位 32/40 全国市平均 106.6 全国町村平均 103.2



ラスパイレス指数の分析欄
 ラスパイレス指数は、国家公務員の時限的(2年間)給与改定特例法による減額支給措置の影響から、平成25年4月1日時点では107.1となっており、類似団体及び全国市平均を上回っている。なお、同時点で減額支給措置が無いとした場合の参考値は98.9であり、全国市平均の98.5を上回っている。
 この要因には、国家公務員と比較して高卒者の昇給者の割合が高いことがある他、職員の年齢別構成についても、給与水準が高い40~50代が全体の約6割を占めていることが挙げられる。

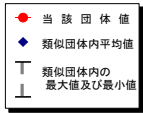
(4)-1 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

平成24年度

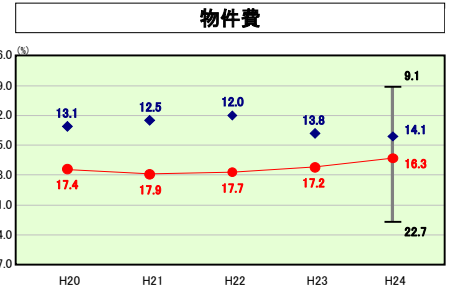
山梨県南アルプス市

経常収支比率の分析

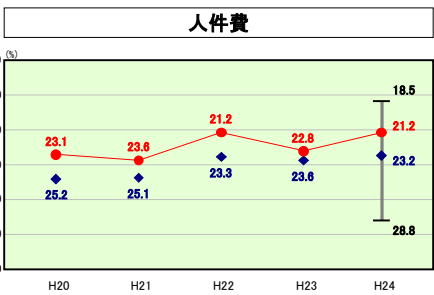
人口	73,261人	(H25.3.31現在)	実収支	赤字比率	-%
うち日本人	72,329人	(H25.3.31現在)	結算赤字比率	-%	
面積	264.07	km ²	実公債負担比率	10.2%	
歳入総額	28,470,522	千円	実未償還比率	23.6%	
歳出総額	27,451,774	千円	市町村類型	H20 II-O H21 II-O H22 II-O	
実収支	836,761	千円	(年度毎)	H23 II-O H24 II-O	
標準財政規模	19,810,452	千円			
地方債現在高	28,502,530	千円			



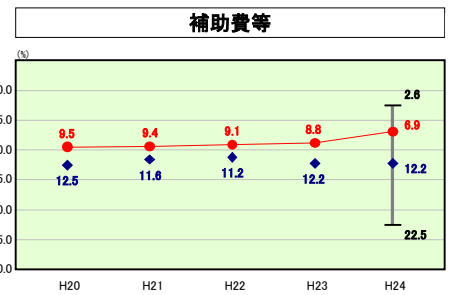
※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 住民基本台帳法の改正により、平成25年3月31日現在の住民基本台帳登録人口については、外国人住民を含む。



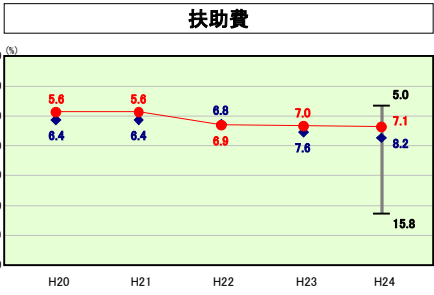
物件費の分析概
 物件費に係る経常収支比率は、前年度比で0.9ポイント減少した。道路台帳管理・小学校設備維持管理・観光イベント等に係る委託料が増加したものの、経常一般財源が増加したことが要因となった。類似団体との比較では、比率は依然として高い水準にあり、人口1人当たりの物件費決算額も賃金・需用費等において上回っている。行政改革により組織・機構の見直しを行い、公共施設の維持管理経費の抑制を図ることが課題である。



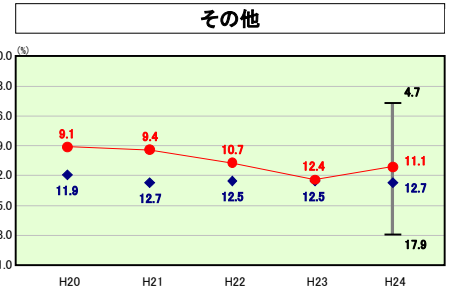
人件費の分析概
 人件費に係る経常収支比率は、前年度比で1.6ポイント減少した。職員数削減に伴う一般職共済組合負担金、地方議会議員年金制度廃止に伴う議員共済負担金等が減少したことが要因となっている。類似団体との比較では、経常収支比率は下回っているものの、人件費のうち職員給の人口1人当たりの金額は上回っている状況にある。今後も定員適正化計画に基づいた職員数の削減により、人件費の抑制を図っていく。



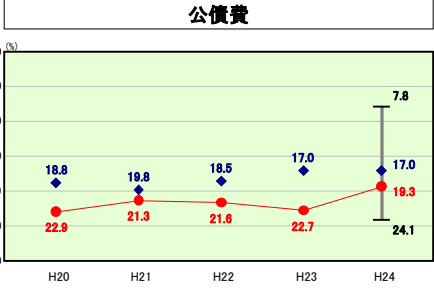
補助費等の分析概
 補助費に係る経常収支比率は、前年度比で1.9ポイント減少した。関係一部事務組合における廃棄物処理施設整備事業に係る起債償還費負担金等の減少が要因となっている。また、類似団体との比較では低い水準で推移している。関係団体に対する補助金・負担金については、公平性・公益性や負担基準を精査し、予算措置を適正に行っていく。



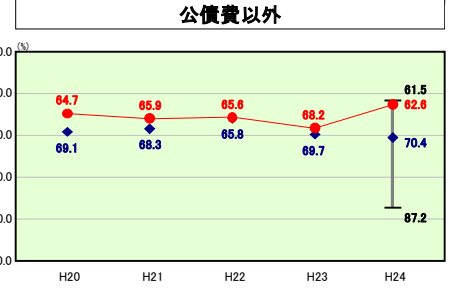
扶助費の分析概
 扶助費に係る経常収支比率は、前年度比で0.1ポイント増加した。障害者自立支援法による介護給付・訓練等給付事業、生活保護費支給事業等における給付対象者が増加したことが要因となっている。比率は類似団体平均を下回って推移しているが、扶助費全体は増加傾向にあり、効率的な財政運営がより一層求められる中で財源配分を適切に行っていく。



その他の分析概
 その他経費に係る経常収支比率は、前年度比で1.3ポイント減少した。このうち特別会計繰出金については、介護保険が増加した一方、国民健康保険・下水道事業が減少し、前年度比1.2ポイントの減となった。また維持補修費については、道路橋梁が増加した一方、庁舎・小中学校等が減少し、前年度比0.1ポイントの減となった。いずれも、類似団体平均を下回っている。特別会計繰出金については、一般会計との負担区分を明確化し、特に大きな割合を占める下水道事業に関しては、周期的な事業計画の見直しと将来の公債費負担の精査が課題である。



公債費の分析概
 公債費に係る経常収支比率は、前年度比で3.4ポイント減少した。将来の公債費負担軽減のため実施してきた繰上償還の効果等により、定時の市債償還金は元金・利子とも減少した。しかしながら、類似団体との比較では、比率は依然として高い水準にあり、人口1人当たりの公債費決算額も上回っている。今後、新庁舎建設等の大型事業が予定される中、市債の新規発行に当たっては計画内容を十分精査し、将来負担を見据えた公債費の管理を厳正に行っていく。



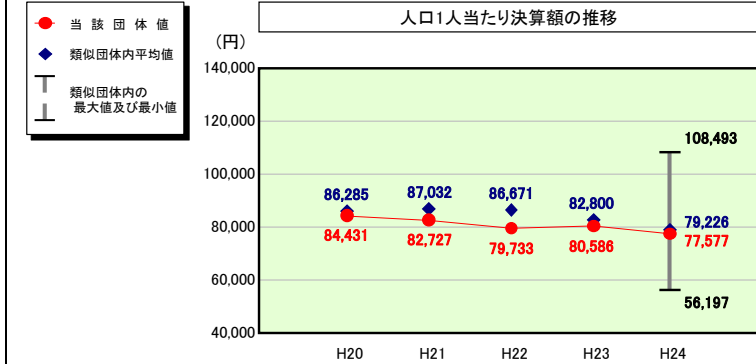
公債費以外の分析概
 公債費以外に係る経常収支比率は、前年度比で5.6ポイント減少した。経常経費に充当した一般財源は物件費・扶助費において増加したが、経常一般財源が臨時財政対策債の発行により大幅に増加したことが、比率の減少要因となった。今後は、平成26年度から普通交際税の一本算定に向けた激変緩和期間に入り、厳しい財政運営が見込まれる。自主財源の確保に努める一方、公共施設再配置をはじめとする行政改革を推進し、経常経費の削減を図ることが課題である。

(4)-2 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

平成24年度

山梨県南アルプス市

人件費及び人件費に準ずる費用の分析



人件費及び人件費に準ずる費用

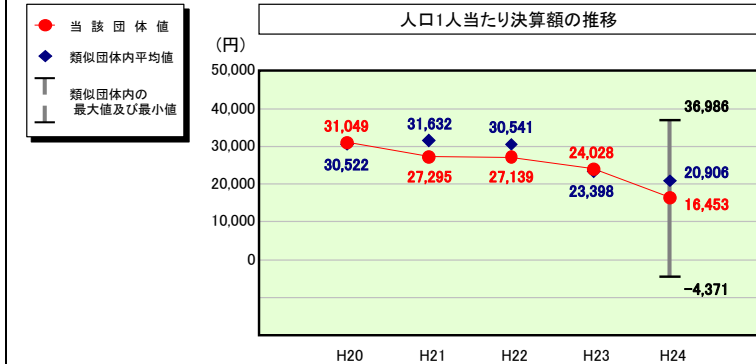
	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体(円)	類似団体平均(円)	対比(%)
人件費	4,806,696	65,611	67,762	▲ 3.2
賃金(物件費)	872,749	11,913	5,758	▲ 106.9
一部事務組合負担金(補助費等)	101,861	1,390	8,882	▲ 84.4
公営企業(法適)等に対する繰出し(補助費等)	2,932	40	1,169	▲ 96.6
公営企業(法適)等に対する繰出し(投資及び出資金・貸付金)	-	-	-	-
公営企業(法非適)等に対する繰出し(繰出金)	249,107	3,400	2,470	▲ 37.7
事業費支弁に係る職員の人件費(投資的経費)	59,926	818	1,435	▲ 43.0
▲退職金	▲ 409,906	▲ 5,595	▲ 8,250	▲ 32.2
合計	5,683,365	77,577	79,226	▲ 2.1

参考

	当該団体	類似団体平均	対比(差引)
人口1,000人当たり職員数(人)	7.58	7.56	0.02
ラスパイレズ指数	107.1	105.3	1.8

(注) 住民基本台帳法の改正により、平成25年3月31日現在の住民基本台帳登録人口については、外国人住民を含む。(公債費及び普通建設事業費についても同様)

公債費及び公債費に準ずる費用の分析

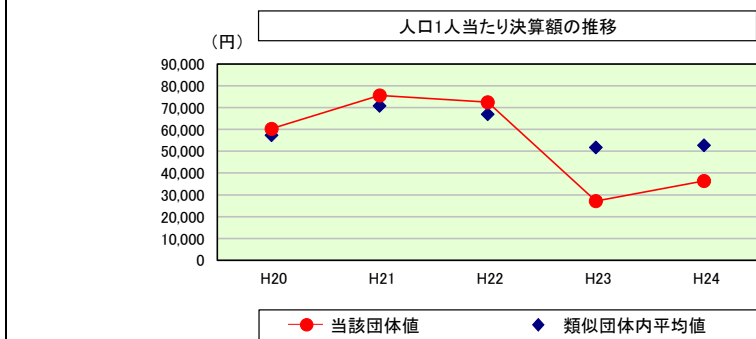


公債費及び公債費に準ずる費用(実質公債費比率の構成要素)

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体(円)	類似団体平均(円)	対比(%)
元利償還金の額 (繰上償還額等を除く)	3,851,968	52,579	45,322	16.0
積立不足額を考慮して算定した額	-	-	-	-
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの (年度割相当額)	-	-	68	-
公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に 充てたと認められる繰入金	902,329	12,317	13,865	▲ 11.2
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる 補助金又は負担金	142,675	1,947	3,260	▲ 40.3
公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	3,433	47	1,455	▲ 96.8
一時借入金利息 (同一団体における会計間の現金運用に係る利子は除く)	170	2	4	▲ 50.0
▲特定財源の額	▲ 6,320	▲ 86	▲ 4,339	▲ 98.0
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として 普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	▲ 3,688,894	▲ 50,353	▲ 38,729	30.0
合計	1,205,361	16,453	20,906	▲ 21.3

※平成25年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(参考) 普通建設事業費の分析



普通建設事業費

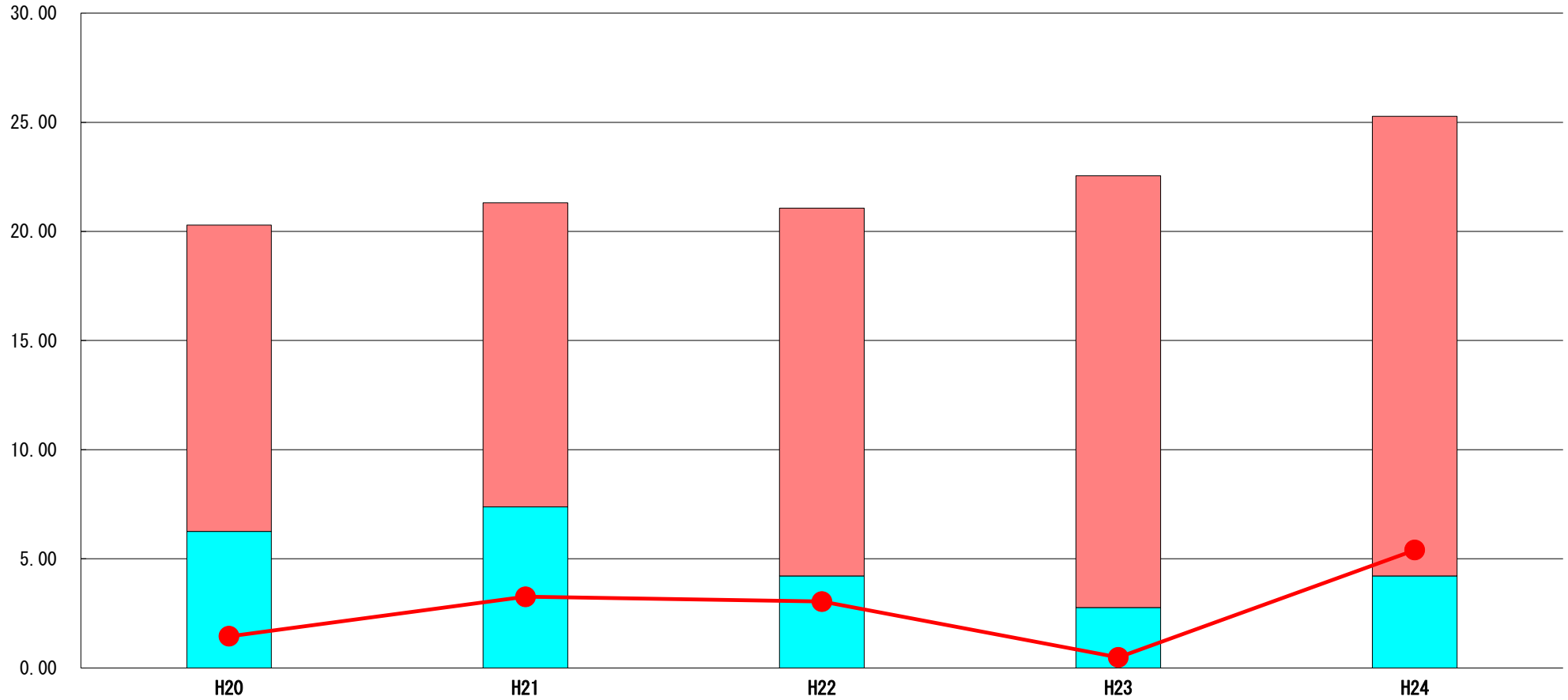
	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額				
		当該団体(円)	増減率(%) (A)	類似団体平均(円)	増減率(%) (B)	(A)-(B)
H20	4,400,895	60,343	21.7	57,376	▲ 5.2	26.9
うち単独分	1,821,939	24,982	2.4	32,650	▲ 3.3	5.7
H21	5,528,347	75,641	25.4	70,789	▲ 23.4	2.0
うち単独分	1,904,282	26,055	4.3	40,880	▲ 25.2	▲ 20.9
H22	5,291,175	72,556	▲ 4.1	66,876	▲ 5.5	1.4
うち単独分	2,432,614	33,358	28.0	36,310	▲ 11.2	39.2
H23	1,976,426	27,203	▲ 62.5	51,704	▲ 22.7	▲ 39.8
うち単独分	901,929	12,414	▲ 62.8	26,896	▲ 25.9	▲ 36.9
H24	2,667,729	36,414	33.9	52,678	1.9	32.0
うち単独分	1,357,950	18,536	49.3	30,185	12.2	37.1
過去5年間平均	3,972,914	54,431	2.9	59,885	▲ 1.6	4.5
うち単独分	1,683,743	23,069	4.2	33,384	▲ 0.6	4.8

(5) 実質収支比率等に係る経年分析（市町村）




平成24年度

山梨県南アルプス市

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

区分	年度	H20	H21	H22	H23	H24
 財政調整基金残高		14.04	13.93	16.85	19.78	21.05
 実質収支額		6.25	7.38	4.22	2.77	4.22
 実質単年度収支		1.45	3.26	3.04	0.48	5.40

分析欄

実質収支比率の分母となる標準財政規模は、市民税・普通交付税の増加により、前年度比で2.5億円増加した。また、分子となる実質収支額は、歳入総額・翌年度繰越財源が普通建設事業費や国の平成24年度補正予算（第1号）による緊急経済対策事業費により増加したものの、歳入総額が臨時財政対策債・普通交付税により大きく増加したことから、前年度比で3.0億円増加し、標準財政規模比では1.45ポイント増加した。

本年度の実質収支額から前年度の実質収支額を差し引いた単年度収支に、財政調整基金積立額・市債繰上償還額を加えた実質単年度収支は、単年度収支・市債繰上償還額の増加により、前年度比で9.8億円増加し、標準財政規模比では4.92ポイント増加した。

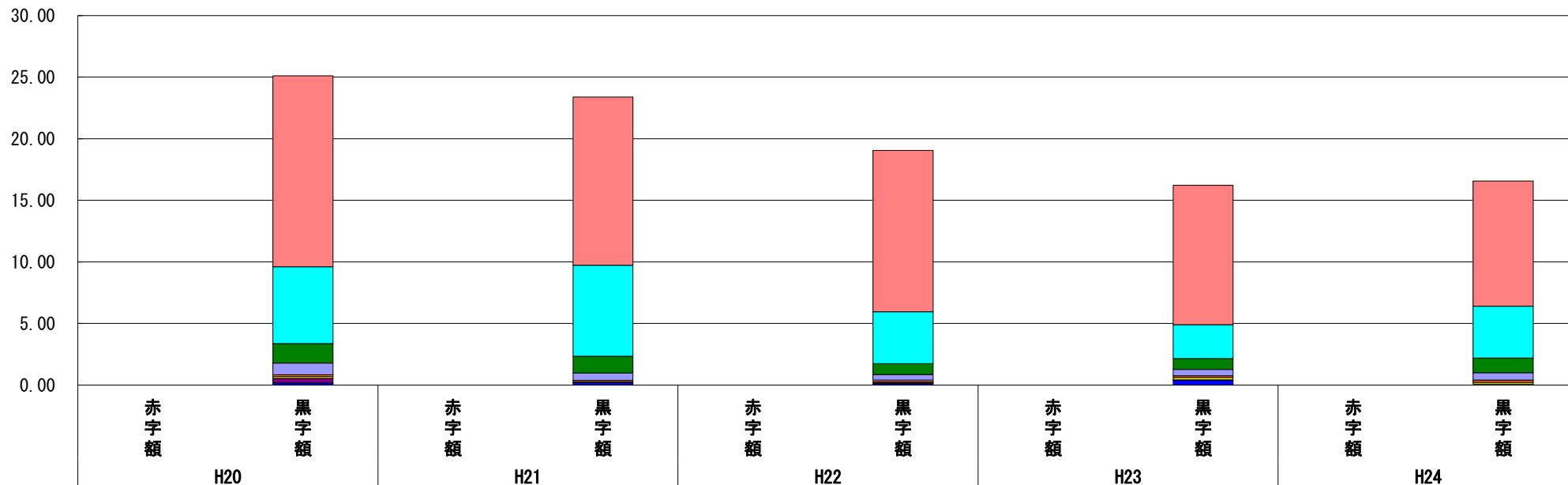
また、財政調整基金は、将来の財政状況を見据えた積立（3.0億円）により、本年度末現在高は41.7億円となり、標準財政規模比では1.27ポイント増加した。

(6) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析（市町村）

平成24年度

山梨県南アルプス市

標準財政規模比（％）



標準財政規模比（％）

会計	年度	H20	H21	H22	H23	H24
水道事業会計		15.51	13.67	13.10	11.30	10.16
一般会計		6.25	7.38	4.22	2.77	4.22
国民健康保険特別会計		1.59	1.36	0.88	0.88	1.19
介護保険特別会計		0.93	0.59	0.45	0.50	0.58
自動車運送事業会計		0.14	0.13	0.14	0.16	0.19
下水道事業特別会計		0.16	0.02	0.09	0.17	0.14
後期高齢者医療特別会計		0.36	0.03	0.03	0.03	0.03
山梨県北岳山荘管理事業特別会計		0.01	0.01	0.02	0.02	0.01
その他会計（赤字）		-	-	-	-	-
その他会計（黒字）		0.17	0.20	0.12	0.38	0.04

分析欄

連結実質赤字比率は、全ての会計で黒字決算のため表示されないが、黒字の比率は前年度比で 0.36ポイント増加した。
 水道事業会計、下水道事業特別会計における資金剰余額が減少したものの、一般会計、国民健康保険特別会計、介護保険特別会計における実質収支額が増加し、分子となる連結実質収支額は前年度比で 1.1億円（3.5%）増加した。また、分母となる標準財政規模は、市民税・普通交付税の増加により前年度比で 2.5億円（1.3%）増加した。

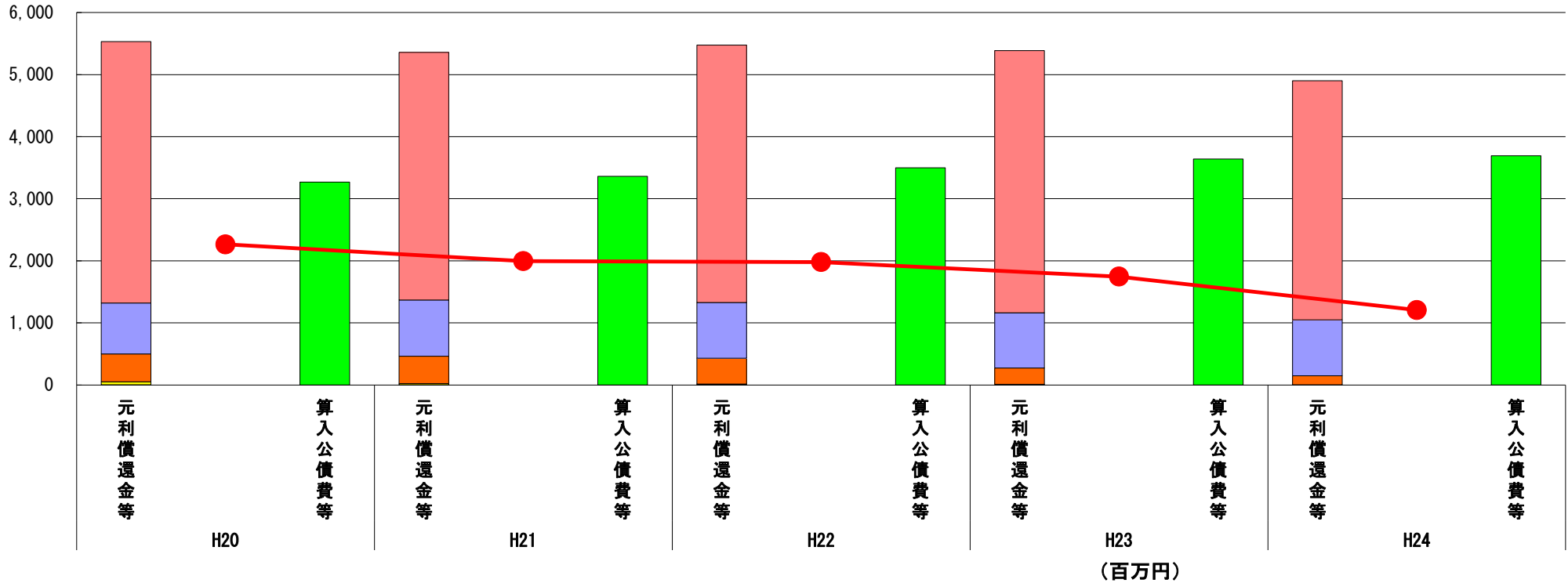
※平成25年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく連結実質赤字比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(7) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

平成24年度

山梨県南アルプス市

(百万円)



分子の構造		年度	H20	H21	H22	H23	H24
元利償還金等 (A)	元利償還金		4,209	3,988	4,149	4,221	3,852
	減債基金積立不足算定額		-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		-	-	-	-	-
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		821	904	898	889	902
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		448	441	416	264	143
	債務負担行為に基づく支出額		52	23	11	10	3
	一時借入金の利子		1	1	2	1	0
算入公債費等 (B)	算入公債費等		3,267	3,362	3,497	3,640	3,694
(A) - (B)	実質公債費比率の分子		2,264	1,995	1,979	1,745	1,206

分析欄

実質公債費比率は前年度比で 1.9ポイント減少し、経年でみても改善傾向で推移している。

分子については、公営企業債の元利償還金に対する繰入金が 13百万円増加したものの、一般会計の市債元利償還金が繰上償還の効果等により 369百万円減少し、関係一部事務組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金も 121百万円減少した。

また、算入公債費等については、主に災害復旧費等に係る基準財政需要額算入額の増により 54百万円増加し、この結果、比率の分子は 539百万円減少した。

今後も、市債の新規発行に当たっては計画内容を十分精査するとともに、繰上償還により公債費負担の軽減を図るなど、将来負担を見据えた公債費の管理を厳正に行っていく。

※平成20年度決算の元利償還金は特定財源の額を控除しており、満期一括償還地方債に係る年度割相当額は減債基金積立不足算定額を含んでいる。

※平成21年度決算以降の算入公債費等は特定財源の額を含んでいる。

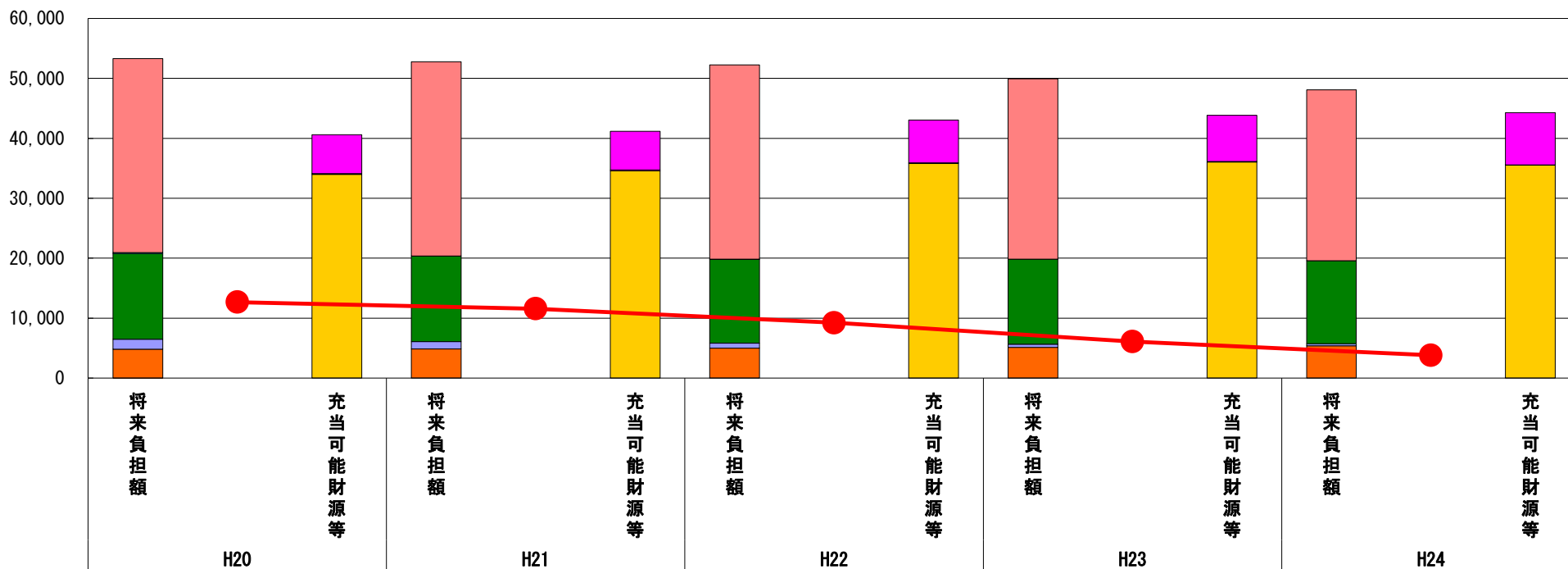
※平成25年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(8) 将来負担比率（分子）の構造（市町村）

平成24年度

山梨県南アルプス市

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H20	H21	H22	H23	H24
将来負担額 (A)	一般会計等に係る地方債の現在高		32,336	32,378	32,427	30,083	28,503
	債務負担行為に基づく支出予定額		184	20	11	3	-
	公営企業債等繰入見込額		14,269	14,271	13,992	14,187	13,845
	組合等負担等見込額		1,659	1,234	823	502	352
	退職手当負担見込額		4,838	4,853	5,002	5,141	5,381
	設立法人等の負債額等負担見込額		0	0	-	-	-
	連結実質赤字額		-	-	-	-	-
	組合等連結実質赤字額負担見込額		-	-	-	-	-
充当可能財源等 (B)	充当可能基金		6,479	6,449	7,111	7,711	8,720
	充当可能特定歳入		162	125	96	61	29
	基準財政需要額算入見込額		33,972	34,603	35,820	36,056	35,513
(A) - (B)	将来負担比率の分子		12,674	11,580	9,229	6,087	3,819

分析欄

将来負担比率は前年度比で 14.5ポイント減少し、経年でみても改善傾向で推移している。
 将来負担額については、退職手当負担見込額が 240百万円増加したものの、一般会計等に係る市債現在高が 1,580百万円、公営企業債等繰入見込額（特別会計の市債現在高のうち一般会計が将来負担すると見込まれる額）が 342百万円、関係一部事務組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金の見込額が 150百万円それぞれ減少した。
 また、将来負担を軽減する充当可能財源等については、充当可能基金が財政調整基金・公共施設整備等事業基金等の積立により 1,009百万円増加し、この結果、比率の分子は 2,268百万円減少した。
 今後も、公債費等義務的経費の削減を図り、財政の健全性維持に努めていく。

※平成25年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。